

第 6 6 期事業報告書

(自 : 令和 4 年 4 月 1 日 至 : 令和 5 年 3 月 3 1 日)

株式会社 札幌振興公社

目 次

I 会社の現況に関する事項

	頁
1. 事業の経過及び成果	1
2. 対処すべき課題	2
3. 設備投資及び資金調達の状況	2
4. 財産及び損益の状況	2
5. 主要な事業内容	3
6. 主要な事業所	3
7. 従業員の状況	4
8. 重要な親会社及び子会社の状況	4
9. 主要な借入先及び借入額	4

II 会社の株式に関する事項

1. 株式会社が発行する株式の総数	4
2. 発行済株式の総数	4
3. 株主数	4
4. 株主	4
5. 会社の新株予約権等に関する事項	4

III 会社の役員に関する事項(附属明細書記載事項を含む)

1. 取締役及び監査役の氏名等	5
2. 役員の報酬等の総額	5
3. 社外役員の主な活動状況	6
4. 社外役員の報酬等の総額	6

事業報告

I 会社の現況に関する事項

1. 事業の経過及び成果

令和4年度の事業全体の経過につきましては、3ヶ年に渡って続いていた新型コロナウイルス感染症の影響がようやく落ち着きを見せ、国内観光客の利用が戻り始めると共に、10月からは入国制限の緩和によりインバウンドについても大幅に増加致しました。来場者数はコロナ禍前の70%から80%台まで回復し、収支についても赤字から黒字へ好転する結果となりました。

このような状況の中、不動産賃貸事業につきましては、コロナ禍の影響も少なく、売上は堅調に推移いたしましたが、世界情勢の影響による電気料等の高騰により費用が増加したことで前年と比較し利益が微減することとなりました。

駐車場事業につきましては、外出機運が高まり、駐車場の利用者が増えたことで売上が回復したほか、レールパーク駐車場では新幹線建設工事に伴う収用等の補償金収入が発生したことや令和4年度より指定管理者として選定された大通周辺自転車等駐車場事業の収支が予測よりも好調に推移したことで、前年度と比較し増収増益となりました。

大倉山・藻岩山両観光事業につきましては、上記の通り、新型コロナウイルスの影響が緩和したことにより、来場者数が大幅に回復いたしました。大倉山事業は前年収支から5,000万円ほど改善し、藻岩山事業は前年収支から2億6,000万円ほど改善し黒字化するなど、明るい兆しが見られた1年となりました。

事業別概況は下表の通りとなっており、事業全体の経常収入は2,872,810千円、経常支出は2,836,995千円、当期の経常利益は35,815千円であります。

事業別概況

事業別の経常損益につきましては、次のとおりであります。

(単位：千円)

区 分			収 入	支 出	うち減価償却費	経常損益
不 動 産 賃 貸	不動産		1,111,938	854,309	388,716	257,629
駐 車 場	直営駐車場	時間・定期駐車場	417,788	290,037	3,198	127,751
	駐輪場 ※	札幌駅・大通周辺駐輪場管理	121,999	115,018	0	6,981
大 倉 山	直営事業	索道・レストラン	191,329	300,391	54,324	△ 109,062
	ジャンプ競技場 ※	施設管理・利用料金・売店	260,002	286,323	14,807	△ 26,321
藻 岩 山	索道・レストラン・売店・道路・ロッジ		758,828	694,712	132,933	64,116
一 般 管 理 部 門			10,926	296,205	9,361	△ 285,279
合 計			2,872,810	2,836,995	603,339	35,815

(注)1. ※は指定管理者としての業務となっております。

(注)2. 札幌市から受託した文書保存センターにつきましては一般管理部門に含めております。

(注)3. 経常損益以外では、特別損益として、大倉山・藻岩山モニュメント設置工事に係る札幌市補助金等で18,287千円の利益を、また同工事に係る圧縮記帳及び除却等により20,244千円の損失をそれぞれ計上しております。

2. 対処すべき課題

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が緩和しながら、全国旅行支援の開始や入国制限の解除なども追い風となり、人流の増加による経済活動の活発化がみられる1年となりました。

このような経済情勢の中、不動産賃貸事業につきましては、新規事業として北8西1地区再開発（さつきた8・1）事業が令和6年度の開業を予定しており、新たな収入源として期待をしておりますが、コロナ禍を契機に広がった在宅勤務や都心部の再開発の進展などによるオフィスの空室増加が将来的に懸念されることから、既存テナントとの良好な関係の構築と賃貸ビルの満床稼働の維持に加え、不動産業況の動向にも注視しながら更なる収益性の向上に努めて参ります。

指定管理等の事業につきましては、大倉山ジャンプ競技場等の指定管理者に再選定され、令和5年度以降の継続が決定した他、札幌駅・大通周辺自転車等駐車場管理業務と文書保存センターの管理業務と併せて、効率的な業務執行に努め、市民サービスの充実と向上に努めて参ります。

大倉山・藻岩山両観光事業につきましては、今後もインバウンドの需要回復が一定程度見込めることから、政府の施策等の動向に注視しながら、適切なタイミングでのPRを実施するなど、効果的な誘致と集客に努めて参ります。また、索道設備の老朽化の進行が課題であります。お客様の安全輸送を第一に中長期修繕計画に基づいた設備の維持・管理に努めて参ります。

最後に、新たな取組みとして、令和5年4月にテレビ塔レストラン「ザ ガーデン サッポロ」が開業予定であり、既存施設の藻岩山レストラン「ザ ジュエルズ」、大倉山レストラン「ヌーベルプース大倉山」と合わせレストラン事業の規模が拡大いたします。一元的なヒト、モノの管理を行うため「料飲部」を新設したところであり、効率的な事業運営の実践と、札幌の顔として市民に愛される施設づくりを行って参ります。

3. 設備投資及び資金調達の状況

1) 設備投資の状況

当期中に実施した設備投資の総額（リース資産を含む）は、124,284千円で、その主なものは次の通りです。

藻岩山ロープウェイ 主電動機・減速機・制動装置他整備工事	52,781千円
藻岩山ミニケーブルカー 走行車輪・接続装置・受索装置他整備工事	21,364千円
大倉山ジャンプ競技場 リフト支えい索更新工事	5,100千円

2) 資金調達の状況

当期中に調達した資金の総額は、820,000千円で、内訳は次のとおりです。

運転資金	400,000千円
北8西1地区再開発（さつきた8・1）事業資金	420,000千円

4. 財産及び損益の状況

	第63期 (令和元年度)	第64期 (令和2年度)	第65期 (令和3年度)	第66期 (令和4年度)
売上高(千円)	2,594,682	2,097,136	2,125,658	2,780,835
営業利益(千円)	△ 31,489	△ 548,073	△ 361,549	15,041
経常利益(千円)	△ 36,930	△ 552,941	△ 287,478	35,815
当期純利益(千円)	△ 38,430	△ 581,498	△ 288,655	32,448
1株当たり当期純利益(円)	△ 347.14	△ 5,252.72	△ 2,607.45	293.11
総資産(千円)	13,127,659	13,011,486	12,798,475	12,763,810
純資産(千円)	3,164,868	2,577,392	2,288,736	2,321,184
1株当たり純資産(円)	28,588.56	23,281.83	20,674.37	20,967.48

(注)1. 記載金額は千円未満を、1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産は小数点第2位未満をそれぞれ切捨てて表示しております。

(注)2. 1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式総数に基づき算定しております。

(注)3. 1株当たり純資産は、期末発行済株式総数に基づき算定しております。

5. 主要な事業内容

- (1) 不動産の賃貸（宮の沢ターミナルビル、白石ガーデンプレイス等）
- (2) 駐車場の経営（レールパーク札幌駐車場等）
- (3) 札幌市ジャンプ競技場等の管理運営（指定管理者）
- (4) 大倉山ジャンプ競技場リフト・レストラン・売店の経営
- (5) 藻岩山ロープウェイ・レストラン・売店・観光道路の経営
- (6) 藻岩山スキー場ロッジの経営（食堂、レンタルスキー他）
- (7) 札幌市札幌駅周辺自転車等駐車場の管理運営（指定管理者）
- (8) 札幌市大通周辺自転車等駐車場の管理運営（指定管理者）
- (9) 損害保険代理業

6. 主要な事業所

名 称	所 在 地
本 社	札幌市中央区北 1 2 条西 2 3 丁目 2 番 5 号（SDC 北 1 2 条ビル 4 階）
宮の沢ターミナルビル （ 防 災 セ ン タ ー ）	札幌市西区宮の沢 1 条 1 丁目 1 6 番地 1 他
白石ガーデンプレイス （ 防 災 セ ン タ ー ）	札幌市白石区南郷通 1 丁目南 2 2 番 4
セ レ ス タ 札 幌 （ 防 災 セ ン タ ー ）	札幌東区北 1 2 条東 7 丁目 6 番地他
レールパーク札幌駐車場	札幌市中央区北 5 条西 1 丁目 1 番 1 他
大倉山ジャンプ競技場	札幌市中央区宮の森 1 2 7 4 番地
藻 岩 山 ロ ー プ ウ ェ イ	札幌市中央区伏見 5 丁目 3 番 7 号他
藻 岩 山 ス キ ー 場 ロ ッ ジ	札幌市南区藻岩下 1 9 9 1 番地
駐 輪 場 （ 札 幌 駅 周 辺 ）	札幌市中央区北 5 条西 5 丁目 7 番地（札幌 5 5 ビル 1 階）
駐 輪 場 （ 大 通 周 辺 ）	札幌市中央区南 1 条西 2 丁目（西 2 丁目線地下）

7. 従業員の状況

(令和5年3月31日現在)

区 分	従業員数	平均年齢	平均勤続年数
正社員（事務職・技術職）	44 名	43.3 歳	13.6 年
正社員（専任職・再雇用・嘱託）	82 名	44.6 歳	6.6 年
契 約 社 員	10 名	45.6 歳	2.3 年
合 計	136 名	—	—

(注) 上記以外の従業員は、臨時社員 9名、パート 61名（実雇用人数）であります。

8. 重要な親会社及び子会社の状況

1) 親会社の状況

札幌市は当社株式の88.08%（97,504株）を保有しており、当社は札幌市の第三セクターであります。

当社は、札幌市から土地等を賃借し、宮の沢ターミナルビル賃貸事業等の不動産賃貸事業及びレールパーク札幌駐車場等の駐車場事業並びに藻岩山ロープウェイ等の観光事業を行っております。

また、札幌市の指定管理者制度により、札幌市ジャンプ競技場等管理運営業務について指定管理者として指定を受けております。

2) 子会社の状況

該当はありません。

9. 主要な借入先及び借入額

(令和5年3月31日現在)

借 入 先	借 入 残 高
(株) 北 洋 銀 行	2,402,290千円
(株) 北 海 道 銀 行	1,300,390千円
(株) 日 本 政 策 金 融 公 庫	200,000千円
合 計	3,902,680千円

II 会社の株式に関する事項

1. 会社が発行する株式の総数 120,000株

2. 発行済株式の総数 110,704株

3. 株主数 6名

4. 株主

株 主 名	出 資 状 況	
	持 株 数	出 資 比 率
札 幌 市	97,504 株	88.08 %
(株) さ っ ぽ ろ テ レ ビ 塔	6,240 株	5.64 %
札 幌 商 工 会 議 所	4,160 株	3.76 %
(株) 北 洋 銀 行	1,600 株	1.44 %
(株) 北 海 道 銀 行	800 株	0.72 %
北 海 道 瓦 斯 (株)	400 株	0.36 %
合 計	110,704 株	100.00 %

5. 会社の新株予約権等に関する事項

該当はありません。

Ⅲ 会社の役員に関する事項

１．取締役及び監査役の氏名等

(令和５年３月３１日現在)

地 位	氏 名	担当及び他の法人等の代表状況
代 表 取 締 役 社 長	浦 田 洋	
専 務 取 締 役	村 田 祐 一	
常 務 取 締 役	元 木 朗	
取 締 役	阿 部 雅 司	
取 締 役	見 澤 和 顕	
取 締 役	青 山 智 則	札幌市経済観光局 観光・ＭＩＣＥ担当局長
取 締 役	中 田 雅 幸	札幌市交通事業管理者(交通局長)
取 締 役	白 濱 光 人	(株)さっぽろテレビ塔 代表取締役社長
取 締 役	廣 田 恭 一	札幌商工会議所 専務理事
取 締 役	石 田 裕 一	(株)北洋銀行 執行役員公務金融部長
取 締 役	会 田 朋 生	(株)北海道銀行 常務執行役員本店法人営業部本店長
取 締 役	八 木 渉	北海道瓦斯(株) 常務執行役員
監 査 役	愛 須 一 史	弁護士法人水原・愛須法律事務所 弁護士
監 査 役	上 田 恵 一	上田恵一公認会計士事務所 公認会計士 税理士

(注)1. 板垣昭彦氏、斎藤勝氏、末長守人氏は、令和４年６月２７日取締役を退任いたしました。
川上敏正氏は、令和５年３月３１日取締役を退任いたしました。

(注)2. 青山智則氏、中田雅幸氏は、令和４年４月２０日取締役に就任いたしました。
浦田洋氏は、令和４年６月２７日代表取締役社長に就任いたしました。
会田朋生氏、八木渉氏は、令和４年６月２７日取締役に就任いたしました。

(注)3. 取締役白濱光人氏、廣田恭一氏、石田裕一氏は、会社法第２条第１５号に定める社外取締役です。

(注)4. 監査役愛須一史氏、上田恵一氏は、会社法第２条第１６号に定める社外監査役です。

２．役員の報酬等の総額

(単位：千円)

区 分	人 数	報酬等の額	報酬限度額
取 締 役	９ 名	46,908	60,000
監 査 役	２ 名	1,608	4,000
合 計	11 名	48,516	－

(注) 報酬限度額は、取締役については令和２年６月２９日開催の株主総会で、監査役については平成２０年６月２７日開催の株主総会で承認されております。

3. 社外役員の主な活動状況

区 分	氏 名	活 動 状 況
取締役	青 山 智 則	当社の業務執行者から独立した立場で必要に応じて、取締役会において議案の審議に必要な発言を行っております。
	中 田 雅 幸	
	白 濱 光 人	
	廣 田 恭 一	
	石 田 裕 一	
	会 田 朋 生	
	八 木 渉	
監査役	愛 須 一 史	主に弁護士としての立場で必要に応じて、取締役会において法令及び定款遵守にかかる見地から発言を行っております。
	上 田 恵 一	主に公認会計士としての立場で必要に応じて、取締役会において法令及び定款遵守にかかる見地から発言を行っております。

4. 社外役員の報酬等の総額 (単位：千円)

社外役員の報酬等の総額	人 数	報酬等の額
	4 名	2,616